

法政大学自然科学センター年報第2号刊行にあたって

法政大学自然科学センターも二年目を終えようとしている。今年は安定した活動のもと、若い研究者たちのさらなる飛躍の準備が整えられようとしている。

化学の中田和秀氏は第1号に「フェノールの酸性度に影響を及ぼすフェノキシドイオンの水和構造に関する理論的研究」という論文を投稿してくれたが、今年度はサヴァティカルでミュンヘンに留学中である。また次年度4月からは物理の吉田智氏が一年間サヴァティカルを取る予定である。成果は本年報をはじめとする出版等で報告されるであろう。楽しみである。

研究活動、教育活動だけではなく、センターの構成員の大学に対する貢献はさまざまな形に及ぶ。特に今年度は生物の木原章氏が副学生部長を勤められ、忙しい中大変ご苦労された。法政大学では旧学生会館が取り壊され、新複合施設が建設中で、新しい魅力的な学生施設の展開が期待されているが、学生部が大学と学生の仲介役を果たしたおかげで、スムーズに計画が展開していることは記憶されている。

理系と文系を結ぶ架け橋になると第1号の巻頭に述べたが、その活動は続いている。「文系」の人も読めるよう、「理系」の人も自分の専門を考え直す一つの機会になるよう、「重力の物理学」という本が出版された。またいくつかの新たなプロジェクトを計画中である。2005年度には公開講座などで新たな視点を提供していきたい。

法政大学自然科学センター長
小池康郎